

[成果情報名] 県内河川を訪れるアユ釣り人の由来とオトリアユ販売店のアユの保菌状況

[要 約] 県内河川を訪れるアユ釣り人は県外者が多数を占め、他県から持ち込まれるオトリアユが県内での冷水病菌の感染源のひとつである可能性があることが分かった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] オトリアユ、釣り人、保菌、感染源

[背景・ねらい]

昨年の調査結果から県内河川におけるアユの冷水病菌の感染時期はアユ漁解禁後である可能性が高いことが示されており、感染源の可能性のあるもののひとつとして、人為的原因による県外からの冷水病菌の持込が考えられた。そこでまず、県内河川を訪れるアユの釣り人の由来について調査した。また、その調査結果から分かった釣り人の由来する隣県のオトリアユ販売店でアユを購入して保菌検査を実施し、感染源の可能性について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 最上小国川、寒河江川、鼠ヶ関川の3河川において、アユ釣りをしている人を対象にアンケートを行い、59名から回答が得られた。回答者の4割が県内者、6割が県外者で占められており、県外のうち東北は29%、関東は26%、中部3%、甲信越2%であった(図1)。
2. その結果を受け、隣県のオトリアユ販売店でアユを購入して保菌検査を実施した。店ごとに1ロットとし、腎臓をホモジナイズし改変サイトファーガ液体培地で4°C4日間又は10日間培養後、これを同平板培地に塗抹して18°Cで4日間以上培養後、出現した菌コロニーについて冷水病菌であるかどうかの判定を行った。その結果、A県の店のアユから冷水病菌が検出された。
3. 以上のことから、他県から持ち込まれるオトリアユが県内での冷水病菌の感染源のひとつである可能性がある。

[成果の活用面・留意点]

1. 今回のオトリアユ保菌調査では検体に供した尾数が4から7尾と少数であったため、検体数を増やせば更に冷水病菌が検出される検体が増える可能性がある。

[具体的なデータ]

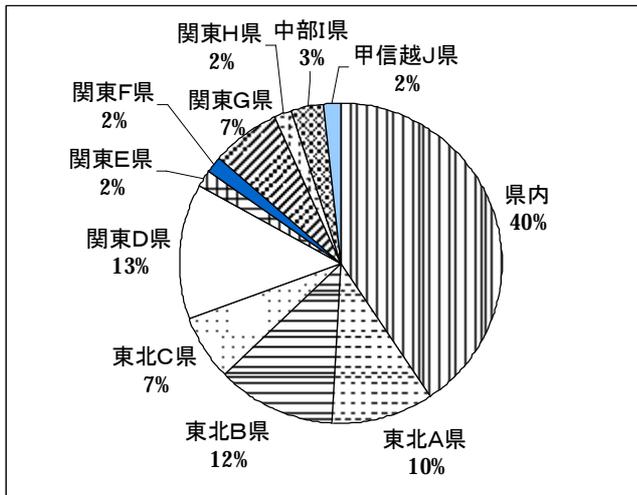


図1 県内河川を訪れるアユ釣り人の由来

表1 隣県及び県内のオトリアユ販売店から購入したアユの冷水病菌保菌検査結果

県	河川	オトリアユ販売店	天然養殖の別	検査に供した尾数	検査結果
A県	A河川	①	養殖	7	-
		②	養殖	6	-
		③	養殖	4	+
B県	B河川	①	不明	6	-
		②	不明	6	-
		③	不明	6	-
C県	C河川	①	養殖	6	-
		②	養殖	6	-
		③	天然	6	-
	D河川	①	天然	6	-
県内	鼠ヶ関川	①	天然	6	-
	最上小国川	①	天然	6	-
		②	養殖	6	-
		③	養殖	6	-
	寒河江川	①	養殖	6	-
		②	養殖	6	-

[その他]

研究課題名：アユ冷水病対策研究

予算区分：受託

研究期間：平成18年度（平成16～18年）

研究担当者：大川恵子

発表論文等：